

家庭用燃料電池「エネファーム」を活用した バーチャルパワープラント実証の概要

1. 実証名称

家庭用燃料電池「エネファーム」を活用したバーチャルパワープラント実証

2. 実証期間

2020年5月29日～2021年2月17日（予定）

3. 実施者

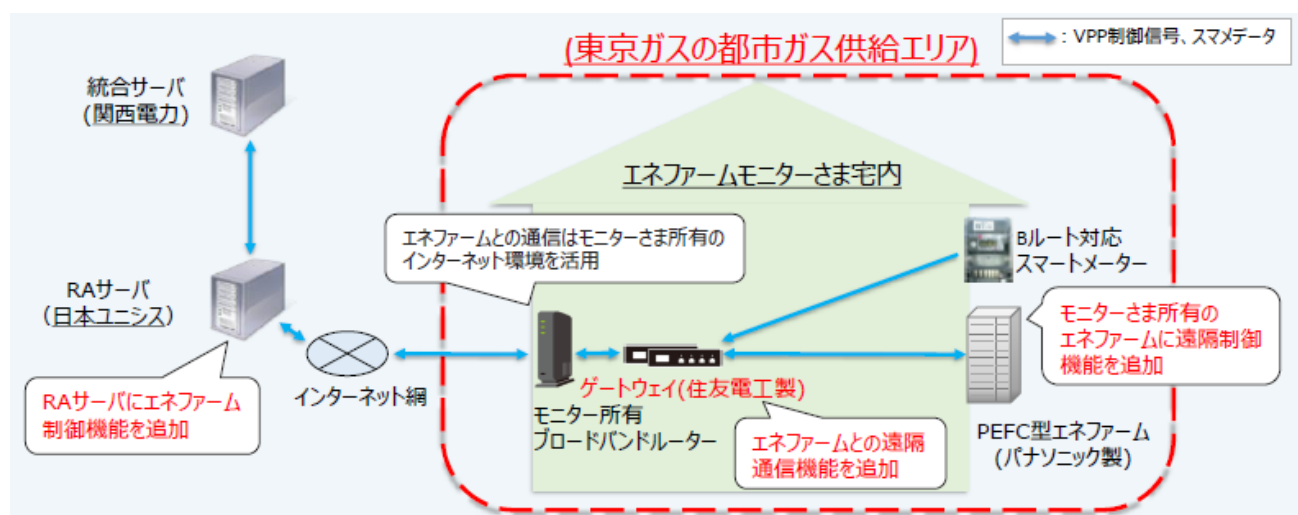
関西電力株式会社、日本ユニシス株式会社、住友電気工業株式会社、
パナソニック株式会社、東京ガス株式会社

4. 実証内容

(1) エネファームを遠隔制御するためのシステム構築

過年度のVPP構築実証事業において、日本ユニシスが構築したRA^{※1}サーバや住友電気工業製ゲートウェイに、エネファームとの遠隔通信機能を追加実装し、さらにエネファーム本体には遠隔制御機能を追加することで、実証環境を構築します。

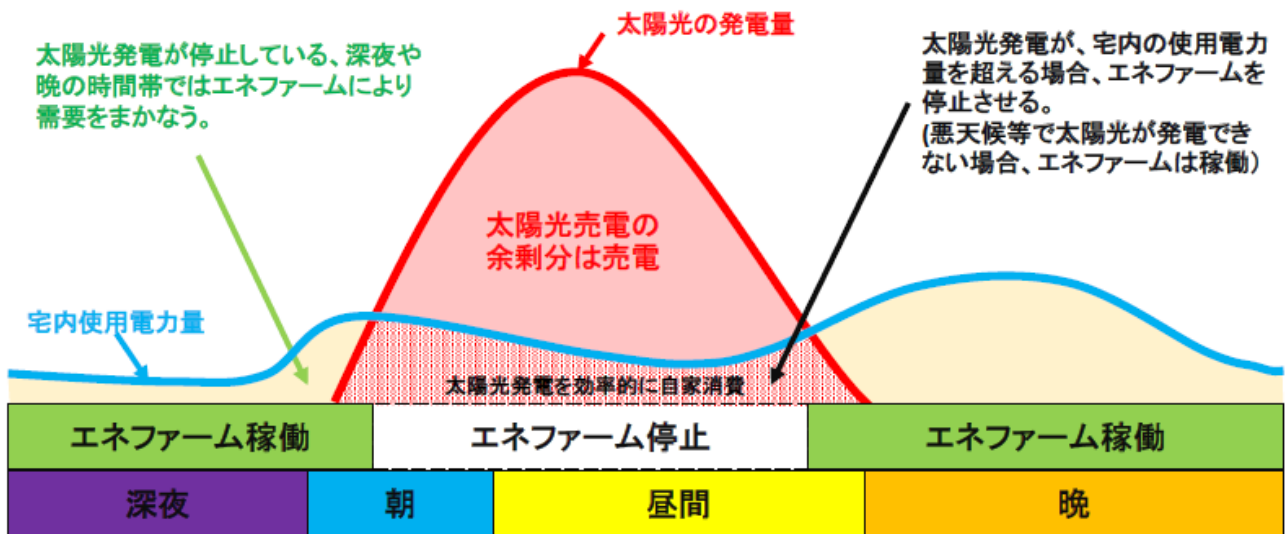
<本実証システムのイメージ図>



(2) 自家消費実証およびDR^{※2}指令に基づいた制御実証の実施

太陽光発電設備の発電量および家庭内需要の実績・予測に基づき、最適なエネルギーマネジメントに向けてエネファームを制御する自家消費実証を行います。さらに、電力取引等を想定したDR指令に基づいた制御実証を行い、エネファームのVPPリソースとしてのポテンシャル評価や技術的知見の獲得を目指します。

<自家消費実証のイメージ図>



以上

- ※1 リソースアグリゲーターの略。需要家とVPPサービス契約を直接締結して需要家側エネルギーリソースや分散型エネルギーリソースを統合制御し、VPPやDRからエネルギーサービスを提供する事業者のこと。
- ※2 デマンドレスポンスの略。お客さまのエネルギーリソースを制御することで、電力需要パターンを変化させること。